刊行のことば

守健二教授は，2025 年 3 月 31 日をもって本学を退職されました。守教授の長年にわたる本学での研究および教育における業績を称えるため，研究年報『経済学』第 83 巻第 1 号を，教授のご退職を記念する特別号とします。

守教授は，1984 年 3 月に東北大学経済学部を卒業され，1989 年 3 月に同大学大学院経済学研究科博士後期 3 年の課程を単位修得退学，1989 年 4 月に大分大学経済学部講師に着任，1991 年 4 月に同大学経済学部助教授し昇任し，2002 年 12 月に東北大学より博士（経済学）の学位を授与され，2003 年 10 月に東北大学大学院経済学研究科教授に着任，以来 2025 年 3 月に退職するまで 22 年間の長きにわたり，本研究科での研究および教育に携わってきました。また，守教授は，COVID-19 が世界中に蔓延した 2020 年 4 月から 2022 年 3 月にかけて経済学研究科長･経済学部長に就任され，様々な困難に直面しつつも本研究科・学部の教育・研究活動の円滑化のために優れた手腕を発揮されました。

守教授の研究は 1）流動・固定資本に関する多部門モデル分析，2）数理マルクス経済学の起源に関する研究，3）マルクスの未公表草稿研究，4）技術と消費の共進化に関する数理的研究など多岐にわたりますが，3）は世界でも類を見ない研究成果で，2 つの柱があります。第 1 の柱は中期マルクスの『恐慌論ノート』（Books of Crisis）に関する未公表抜粋ノートに関する研究です。未公表であった『恐慌論ノート』は守教授が率いた国際的チームによって編集され，2017 年に初めて世界に刊行されました。守教授はこの研究を通じて，中期マルクスの恐慌論の経済学説史上の意義を明確化しました。第 2 の柱は『新マルクス・エンゲルス全集』第 2 部に含まれる 3 巻の編集に関する研究です。この研究を通じて，守教授はエンゲルスが編集した『資本論』とマルクスのオリジナル草稿との間にいくつかの重要な相違が存在することを明らかにしました。

これらの研究成果は国際的に高く評価され，守教授は 2024 年 8 月に世界政治経済学会（World Association for Political Economy）より「21 世紀世界政治経済学・特別功労賞（Distinguished Achievement Award of World Political Economy of the 21st Century）」を受賞しました。

教育面での功績としては，守教授は学部において「経済学入門 A」や「政治経済学原理」を，大学院では「政治経済学特論」を長年担当しました。卓越した研究業績を有する守教授の下には，優秀な大学院生が集い，研鑽を積みました。結果として，富山大学，学習院大学，武漢大学など国内外の有力大学に教員を輩出しました。

末筆になりましたが，守教授が今後ともますますご壮健で活躍されることを祈念すると共に，私たち後進に対し，引き続き温かいご指導･ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げる次第です。

2026 年 10 月 1 日

東北大学大学院経済学研究科長　松　田　安　昌